

# 女神ドウルガー

## 強さと保護を与える者

### パールグニー・フリーマン

堂々たる姿のデーヴィー、女神ドウルガーは、穏やかでいながら恐ろしく、内側と外側の至高なる力の具現です。ちょうど水が山を流れ下る時に、激流、支流、穏やかな小川などの姿になるのと同様に、至高なる女神マハーデーヴィーも、すべて同じ本質でありながら多くの姿で現れます。この世界の調和が危険にさらされる時、**ダルマ**が脅威にさらされる時、この女神はサグナ、すなわちドウルガー・デーヴィーの姿を取って現れます。この顕現において、デーヴィーは強さと保護を与える者です。女神ドウルガーは、意志が強く、決断力、慈悲、そして正義の模範です。

『マールカンデーヤ・プラーナ』には、『デーヴィー・マーハートウミヤ』、あるいは『ドウルガー・サプタシャティー(ドウルガーをたたえる 700 節)』として知られる美しい教典があり、それは悪魔マヒシャースラと戦って殺した女神ドウルガーの偉大さをたたえています。

この伝説は、長い苦行の後にマヒシャースラが**ブラフマー**神より恩恵を授けられた時から始まります。この悪魔は、男性、動物、神によって殺されることはなく、女性だけが彼を負かし得るといふ無敵さを求めました。マヒシャースラは、女性は特別強いとは感じていなかったため、自分は確実に不死身になると考えました。

この恩恵を受け取った後、マヒシャースラは貪欲、高慢そして利己心に負けて、あらゆる場所で大暴れしました。宇宙の平和と秩序を容赦なく脅かし、宇宙的な危機を招いたのです。

神々はヴィシヌ神とシヴァ神に加護を祈りました。神々が集まって祈っていると、すべての神々からテージャス、エネルギーが、明るい光となって一気に発せられたと言われています。テージャスが光の球となって放射されると、それは融合して、最も輝かしく、強く、恐ろしい女神、ドゥルガー・デーヴィーの姿になりました。彼女は、ダルマと倫理的秩序を維持し、貪欲、高慢、利己心、抵抗、迷い、嫉妬心、怠慢などの悪魔を破壊し、それによって人間性を向上させる戦士の女神として出現したのです。

女神ドゥルガーが強力な武器とすべての神々からもらった宝石を装具として身に飾った時、彼女の輝く恐ろしい姿は全宇宙を揺るがしたと言われています。これを見聞きしたマヒシャースラの虚栄心は彼女に向けられ、大きな戦争が起きました。「彼女の足跡で地面はゆがみ、彼女の冠で空はえぐられ、弓の弦の音で地下世界が揺さぶられ、デーヴィーと、デーヴァたちの敵との間の戦いが始まった」と、『デーヴィー・マーハートゥミヤ』に描かれています。9日間、昼夜を問わず、ドゥルガー・デーヴィーは激しく戦い、10日目にマヒシャースラを破りました。

勝利した女神ドゥルガーの荘厳さ——トラの上に座り、サウミヤター(静けさ)を放ち、力強い装具を8本の腕で振りかざす姿——を見ると、私たちは彼女から、私たち自身の人生のための強さと尊厳を受け取ります。そして女神ドゥルガーとして現れた比類なく強い力による保護を再確認します。

## 女神ドゥルガーの象徴

精神の道に従う人々にとって、この戦士の女神の乗り物と装具は、私たち自身の内なる敵を観察し、直面し、戦う時に使うことのできる道具を象徴しています。神々や女神たちの描写は多様ですが、多くの伝統的な像に描かれる女神ドゥルガーの象徴について、以下に紹介します。

- シェイル(トラ)は、力、意志そして決断力を象徴します。乗り物としてこの素晴らしい動物の上に座り、女神ドゥルガーはこれらの性質を統御していることを象徴しています。探究者の意志と決断力は、精神の道でのたゆまぬ進歩に必要不可欠です。
- スダルシャナ・チャクラ(ヴィシュヌ神の円盤)は、女神ドゥルガーの一番上の右手にあり、正義を象徴しています。これは、人生のどんな状況でも常にダルマを維持し、正しい行動を妨げるあらゆることを放棄し、無力化し、破壊することを思い出させるものです。
- タルヴァール(剣)は、女神の上から2番目の右手にあり、知性の鋭さを表し、探究者に、ネガティブな傾向に打ち勝つために、判断力や識別力など分別を使うことを促します。
- ガドゥ(矛)は、女神ドゥルガーの上から3番目の右手にあり、知識の力を表しています。知識の力を活用する探究者は、明晰(めいせき)さ、正当さ、確実性を求めることにより、幻想を一掃することができます。
- アバヤ・ムドラー(恐れが無さを表す身振り)は、女神ドゥルガーの一番下の右手にあり、デーヴィーの祝福と慈愛と常なる保護を授けています。
- シャンカ(ほら貝)は、女神ドゥルガーの一番上の左手にあり、不純と不吉を一掃することを意味します。それは原初の音オーム、つまり創造の音を発し、その響きは聞く人を平和と静けさで満たします。
- トリシュール(三叉〈さんさ〉の矛)は、女神の上から2番目の左手にあり、シヴァ神より与えられたもので、人間が生来持つ三つのグナ(性質)を超えることを意味します。それらは、タマス(鈍さ、不活発、無知)、ラジャス(活動、情熱)、サットワ(純粹さ、明るさ、調和、知性)です。三叉の矛が遭遇するものすべてを突き刺し破壊することができるように、母なるドゥルガーの慈悲は、それら三つの性質を鎮めてその限界を超えるのに必要な知恵を授けます。

- ダヌシュ(弓)は、女神の上から3番目の左手にあり、エネルギーを象徴します。女神ドゥルガーは時折、この手に弓と矢の両方を持って描かれます。それは潜在のおよび動的なエネルギーの両方を制御していることを表します。探究者として私たちは、潜在的な力を養い、それを最善の結果をもたらすために使うよう意識することができます。
- カマル(ハスの花)は、女神の一番下の左手にあり、執着の無さを象徴します。この清純な花は泥池で育ちますが、よどんだ底から伸び上がり、自然な純粋さで水面に休息します。同じように、私たちはこの世に生まれてその中で生きているかもしれませんが、同時に、汚れたさまざまな状況の中から平静さを持って伸び上がることができます。

女神ドゥルガーという名も、彼女の性質について多くを私たちに語ります。ドゥルガーは「無敵」、「克服できない」、「難攻不落」を意味します。それはサンスクリットの語根ドゥルグからきており、「要塞」、あるいは「負かし難い」という意味です。他にも多くの名前があり、伝統的にドゥルガーの姿のデーヴィーを敬うために使われています。例えば、『デーヴィー・マーハートウミヤ』では、108 の名前で女神ドゥルガーをたたえています。探究者がこれらの名前をチャンティングする時、彼らの内側にあるそれらの側面が呼び起こされ、活性化されます。

女神ドゥルガーをたたえている名前には他に、ブッディ(知性の具現)、マヒシャースラマルディニー(高慢で利己的な悪魔マヒシャースラを破壊した者)、シャイラプトゥリー(行動と活力の提唱者)、ブッディダ(知恵を与える者)、そして、シッディダートゥリー(自然の美しさの具現)などがあります。

### 女神ドゥルガーの崇拝

インドでは、デーヴィー・ドゥルガーは大いなる母として、保護する者として、そしてダルマを維持する者として崇拝されています。人々は災難や危機に直面すると、時間を取って、700 節ある『ドゥルガー・サプタシャティー』を読みます。デーヴィー・ドゥルガーが彼らを守るという信仰は、女神ドゥルガーの信奉者であるデーヴィー・バクタたちの間で非常に強くあります。

インドではまた、ナヴァラトリーとして知られている9昼夜の祝祭が、デーヴィーの崇拝にささげられます。これは、女神ドゥルガーと悪魔マヒシャースラとの9日間の戦いを記念し、女神の勝利を祝う10日目のダセーラまたはヴィジャヤダシャミーで最高潮に達します。ナヴァラトリーは、太陰暦のアシュウインの月、すなわちグレゴリオ暦の9月と10月に祝われ、美しいシャラド・リトゥ——モンスーンの雨が大地を冷やしてインドが華やかに生き返った後の秋の季節——に行われます。マハードゥルガーのムールティが作られ、飾り付けられ、人々は音楽と踊りでデーヴィーをたたえるために集まります。ドールと呼ばれる太鼓の高鳴りが町中に響き渡ります。複雑なランゴリーが描かれ、お香や花や出来てたてのお菓子の香りが町中に広がります。町は色とりどりの旗やマンゴの葉、そして香り高いジャスミン、マリーゴールド、チューベローズなどの花々で飾られます。人々はデーヴィーに心を開き、ダクシナーをささげます。

その雰囲気は、デーヴィーへの愛と献身と崇拝の念で高揚しています。人々はインド北部のヴァイシュノーデーヴィー寺院といった巡礼地に向かいながら、「ジェイ・マター・ディー！」（「大いなる母よ、万歳！」）と、チャンティングします。インドの北部と東部では、通りで「ドゥルガー・デーヴィー・キー・ジェイ！」（「女神ドゥルガー万歳！」）と叫ぶ声が響き渡ります。インドは幅広く多様性に富んだ国で、デーヴィーを崇拝する方法も州ごとに異なります。それでも、ナヴァラトリーを祝う目的は国中皆同じで、それはデーヴィーの存在を呼び起こし、アダルマに対してダルマが、不正義に対して正義が、勝利するのを祝うことです。これらの祭りは、人生、美、善良さとスマラナ——9昼夜、途切れることなく、デーヴィーを「覚えていること」——を祝います。

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムとグルデーヴ・シッダ・ピートウでは何年にもわたって、ナヴァラトリーの間、しばしばドゥルガー・デーヴィーを、女神ラクシュミーと女神サラスワティーと共に、プージャーや他のささげ物でたたえてきました。インドのシッダ・ヨーガ・アーシュラムであるグルデーヴ・シッダ・ピートウには、壮大で高くそびえる女神ドゥルガーの像が、聖人の

住み家にだけ育つと言われる木、アジャーナ・ヴリクシャの隣に立っています。彼女のテンプルへの道にはヤシの木が並び、周りを自然の恵みが囲んでいます。自然を背景にした女神ドゥルガーの輝かしい姿は、ドゥルガー・デーヴィーがこの宇宙のすべての植物、すべての木、地球全体、そしてすべての粒子に浸透している宇宙のエネルギーの現れであることを思い出させます。

ナヴァラトゥリーの間、ドゥルガー・デーヴィーは、美しい赤か緑の盛装をまとい、宝石や花輪で飾られます。オレンジ色のマリーゴールドとマンゴーの葉で作られた幾重ものトーラナ（花輪）が台座を飾ります。そして朝と夕方に、大きな献身の心で崇拝されます。

女神ドゥルガーが、愛と献身を持って崇拝される時、強さ、穏やかさ、揺るぎない信念、不屈の意志、といった彼女の性質を、私たちが自分自身の内側で認め、培う時、私たちはどのような状況においてもダルマを維持するよう、自らをより良く備えるのです。

女神ドゥルガーが、私たちの心とマインドに、私たちの生活に、私たちが探し求める変容に、そして私たちが彼女を思い出し呼び起こす時に切望する自由の中に、その姿を現す時、私たちが彼女の特性を、ダルマの維持者、救世主、そして確かな守護者として体験できますように。強さを授ける女神ドゥルガーが、穏やかな視線を私たちに注いでくれますように。

ジェイ・マーター・ディー！ ダルマ・キー・ヴィジャヤー！

ドゥルガー・デーヴィー・キー・ジェイ！



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。